

# がんに関する意識調査

<調査結果に対する分析>

## 1. 治療費に対する意識と実態にはギャップが生じている可能性

(1) Q2、3、5により、入院期間の短期化や通院治療の増加については、多くの方に認知されている一方、治療費については必ずしも実態が十分に把握されていないことが浮き彫りになりました。

(2) 具体的には、がんの治療に100万円要することを高いと感じる方が約60%に上り、意識と実際にかかる費用にギャップが生じている可能性があると思われます。

Q6によれば、がんの治療に充てることができる資金(がん保険の保険金を含む)としては、100万円未満と回答した方が約60%に上っておりますが、上記認識のギャップがこの一因と考えられます。

(3) また、Q7によれば、保険(医療保険・がん保険)に加入していない方は、がんの治療に充てることができる資金が100万円未満と回答した方が約77%にのぼり、更に50万円未満と回答した方も約44%に達しており、このような方が万一比較的長期間の抗がん剤治療を余儀なくされる場合等では、治療費が十分に賄えなくなるおそれがあることが判明しました。

## 2. がん罹患時の経済的な負担や家族への負担は肉体的な苦痛と同じぐらい不安

(1) Q9では、がんに罹患することを怖いと感じる方は約9割に達しております。Q8で、将来がんになると思うかとの質問に対し、がんになると思うと回答した方が、ならないと思うと回答した方の3倍以上に達しており、がんに罹患することの怖さが自身の問題として広く認知されていることがうかがわれます。

(2) また、Q10では、がんに罹患することを怖いと感じる理由として、肉体的な苦痛と同じぐらいがん罹患時の経済的な負担や家族への負担を怖いと感じていることが分かりました。

## 3. 自分の治療と家族の治療に対する意識の違い

(1) Q12～13では、自分の治療については、「高額な治療でも受けてみたい」と考える方は1割未満にとどまる一方、家族には「高額な治療であっても受けさせたい」と考える方が約半数に上っています。

(2) ただし、先ほどの調査結果の通り、治療費の準備は100万円未満の方が多いのが実態であり、家族に治療を受けさせるために借入れ等を行なっている方もいるとの話しも首肯できます。がんへの備えは、こうした点(万一の際の家族の思い)も加味した上で、行なう必要があると思われます。

2012年5月

東京海上日動あんしん生命保険株式会社

## 調査概要

調査日時:2012年1月21日(土)~23日(月)

サンプル数:1,032名

調査方法:インターネット調査

対象者属性:

<性別>

	男性	女性	合計
20~29歳	103	103	206
30~39歳	206	206	412
40~49歳	129	129	258
50~59歳	78	78	156
合計	516	516	1032

<既婚・未婚>

		既婚		未婚		合計	
		ウエイト		ウエイト		ウエイト	
男性	20~29歳	25	24%	78	76%	103	100%
	30~39歳	96	47%	110	53%	206	100%
	40~49歳	83	64%	46	36%	129	100%
	50~59歳	57	73%	21	27%	78	100%
女性	20~29歳	40	39%	63	61%	103	100%
	30~39歳	161	78%	45	22%	206	100%
	40~49歳	90	70%	39	30%	129	100%
	50~59歳	64	82%	14	18%	78	100%
合計		616	60%	416	40%	1032	100%

<子どもの有無>

		子どもあり		子どもなし		合計	
		ウエイト		ウエイト		ウエイト	
男性	20~29歳	13	13%	90	87%	103	100%
	30~39歳	78	38%	128	62%	206	100%
	40~49歳	69	53%	60	47%	129	100%
	50~59歳	53	68%	25	32%	78	100%
女性	20~29歳	28	27%	75	73%	103	100%
	30~39歳	115	56%	91	44%	206	100%
	40~49歳	84	65%	45	35%	129	100%
	50~59歳	60	77%	18	23%	78	100%
合計		500	48%	532	52%	1032	100%

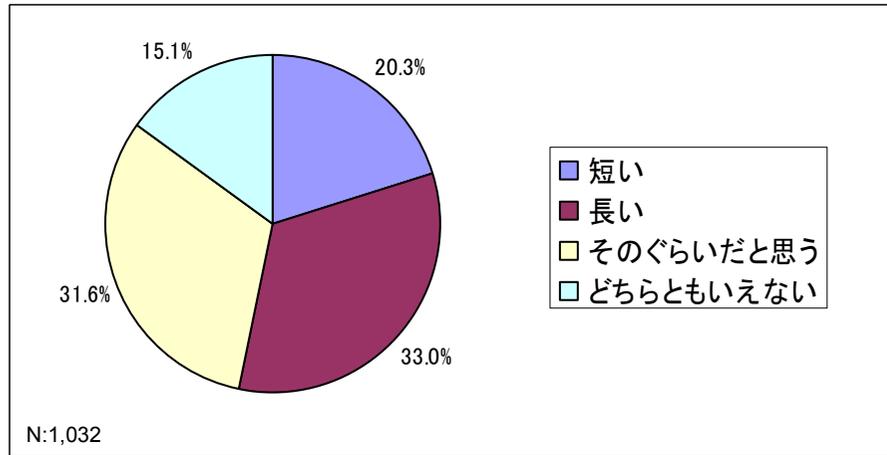
<職業>

		公務員		役員		会社員 (事務)		会社員 (技術)		会社員 (その他)		自営業		自由業		主婦		パート アルバイト		その他		無職	
		ウエイト		ウエイト		ウエイト		ウエイト		ウエイト		ウエイト		ウエイト		ウエイト		ウエイト		ウエイト		ウエイト	
男性	20~29歳	10	10%	1	1%	9	9%	28	27%	22	21%		0%	2	2%		0%	12	12%	5	5%	14	14%
	30~39歳	14	7%	4	2%	26	13%	62	30%	52	25%	13	6%		0%	1	0%	7	3%	15	7%	12	6%
	40~49歳	13	10%	5	4%	12	9%	48	37%	17	13%	14	11%		0%		0%	7	5%	7	5%	5	4%
	50~59歳	4	5%	3	4%	16	21%	19	24%	13	17%	7	9%	5	6%		0%	3	4%	5	6%	3	4%
女性	20~29歳	4	4%		0%	16	16%	8	8%	19	18%	2	2%		0%	25	24%	19	18%	1	1%	9	9%
	30~39歳	5	2%		0%	23	11%	3	1%	8	4%	4	2%	3	1%	111	54%	39	19%	5	2%	5	2%
	40~49歳	1	1%	1	1%	14	11%	1	1%	4	3%	5	4%	4	3%	50	39%	36	28%	9	7%	4	3%
	50~59歳	1	1%		0%	5	6%	1	1%	3	4%		0%	2	3%	36	46%	22	28%	4	5%	4	5%
合計		52	5%	14	1%	121	12%	170	16%	138	13%	45	4%	17	2%	223	22%	145	14%	51	5%	56	5%

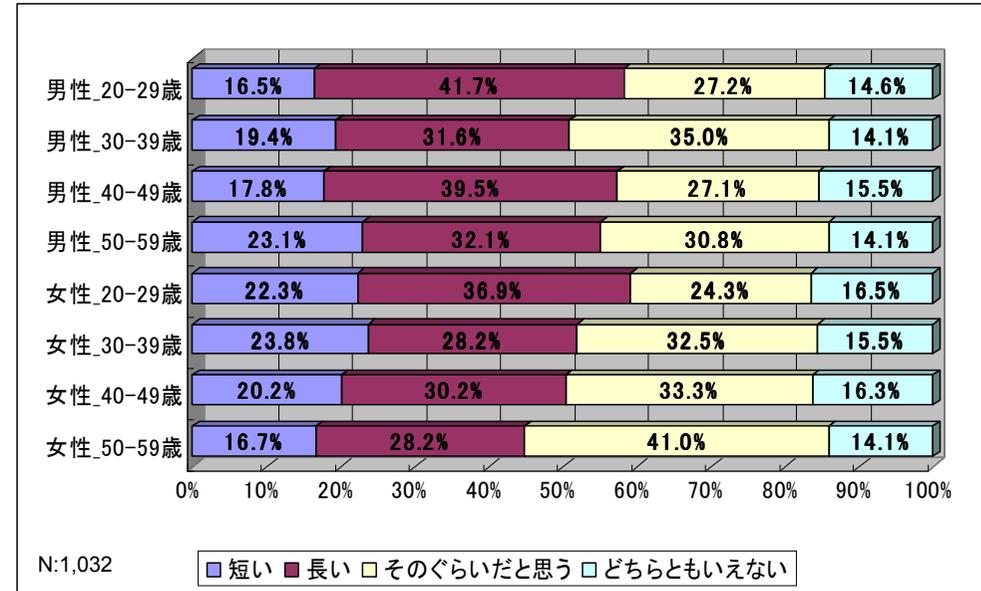
# Q1

「がん」の治療期間は2年がひとつの区切りです。と言われたら、あなたはごどう思いますか。

## 【全体】



## 【性別・年齢別】



3人に1人の方が、がんの治療に2年かかることを「長い」と感じております。

特に20代の男女は2年の治療期間を長いと感じており、また、各年代において女性より男性の方が長いと感じる傾向にあるようです。

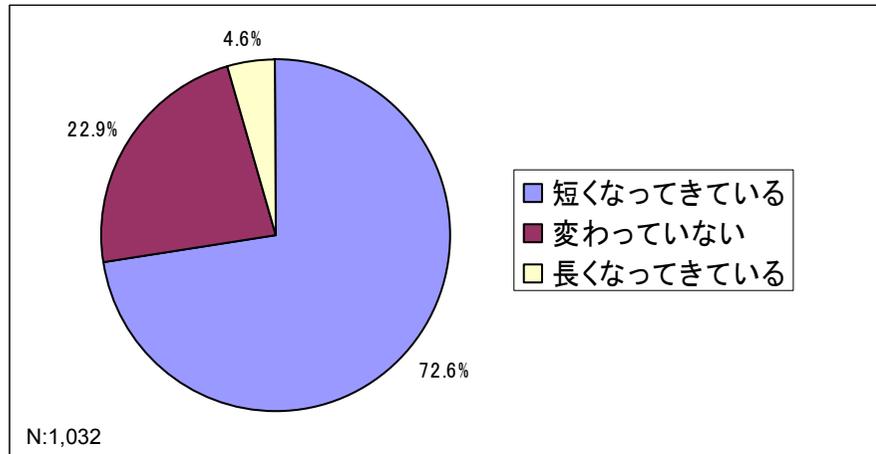
がんの治療期間は、初期の段階で発見され、短期間の治療ですむ場合もありますが、抗がん剤治療が行われるケースなどでは、治療期間が2年以上となるケースもあります。

一方、「そのぐらいだと思う」と回答した方も3割以上に及びがんの治療が長期に及ぶことを想定している方も多いことが分かります。

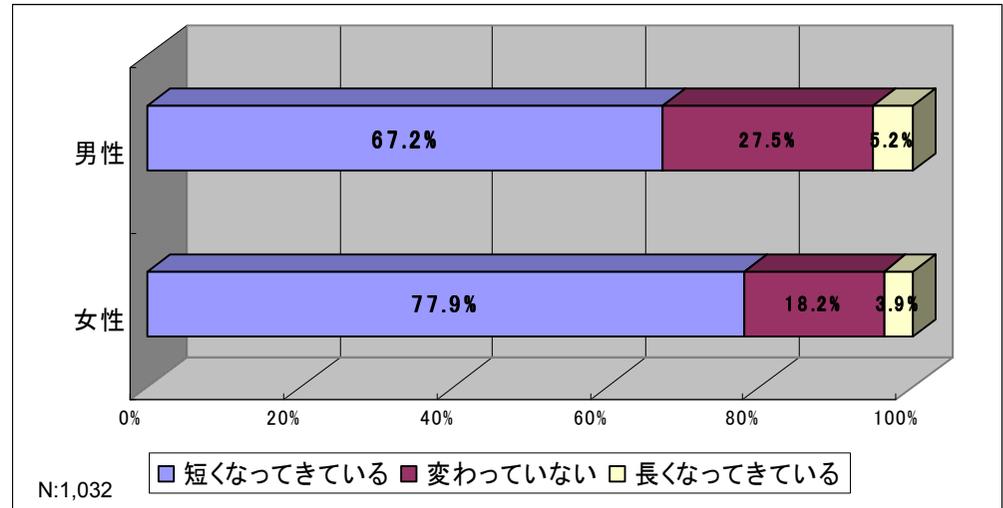
## Q2

近年、「がん」の入院期間はどのようになってきていると思いますか。

### 【全体】



### 【性別】

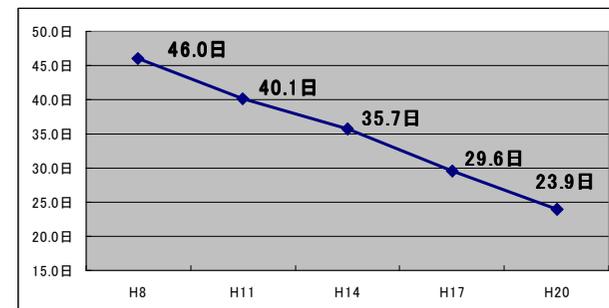


がんの入院期間が短期化していることが多くの方に認知されていることが明らかになりました。

特に女性は男性と比べて認知度が高く、がんの治療実態に対する関心の高さがうかがわれます。

<参考—厚生労働省 患者調査H8、11、14、17、20年 >

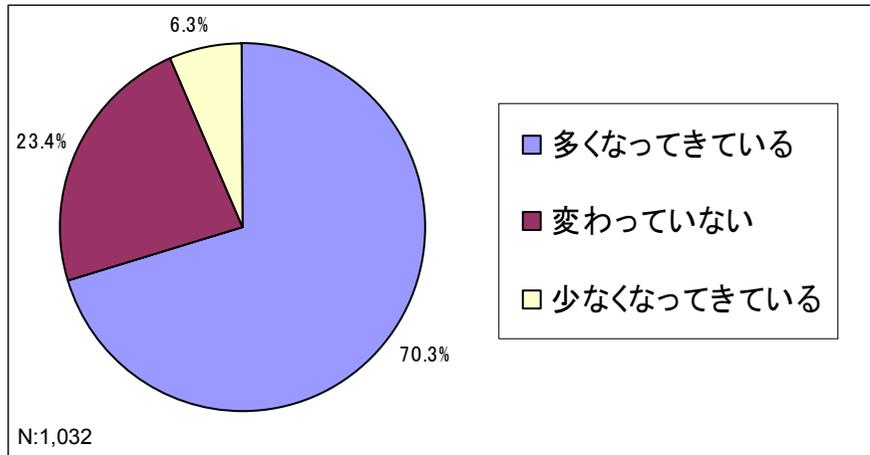
●がんの平均在院日数



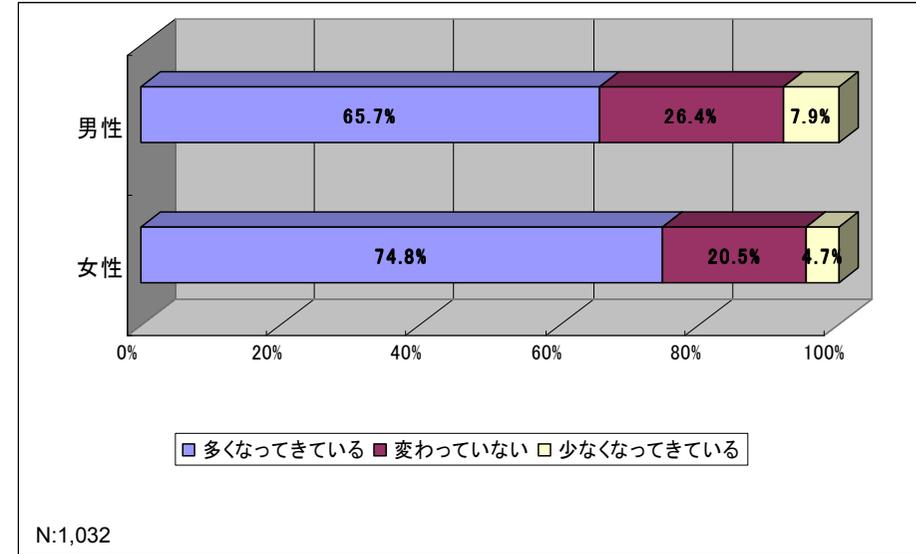
### Q3

近年、通院による「がん」治療はどのようになっていると思いますか。

#### 【全体】



#### 【性別】

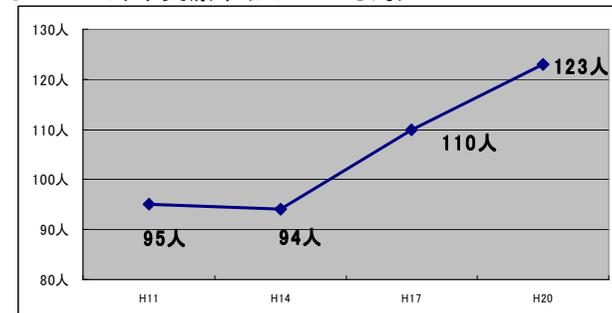


がんの通院治療が増加していることが多くの方に認知されていることが明らかになりました。

入院期間の短期化傾向と同様、相対的には女性の方が、男性よりも認知度が高くなっております。

<参考—厚生労働省 患者調査H11、14、17、20年 >

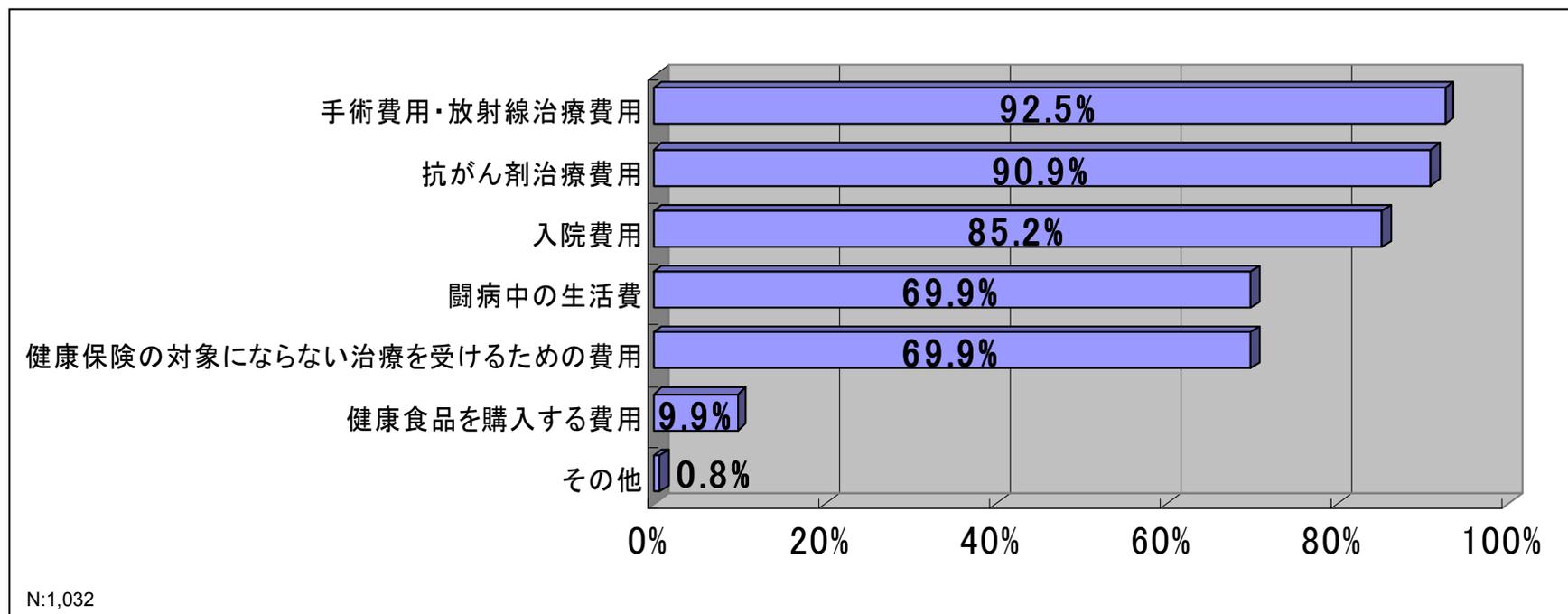
●がんの外来受療率(人口10万対)



## Q4

「がん」になった場合、どんなことにお金がかかるとお思いますか。(複数回答可)

【全体】

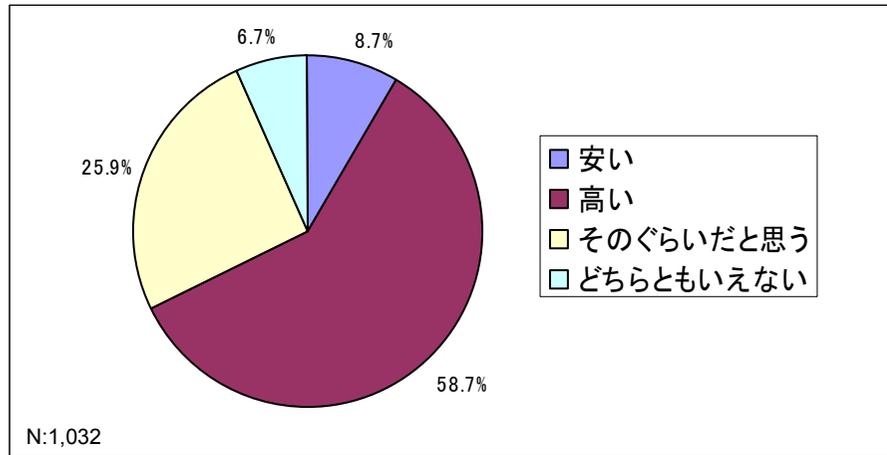


手術費用、放射線治療費用、抗がん剤治療費用、入院費用だけではなく、闘病中の生活費や健康保険の対象にならない治療を受けるための費用など、がんに罹患した場合は、多様な費用を要する可能性があることを、多くの方が想定していることがわかります。

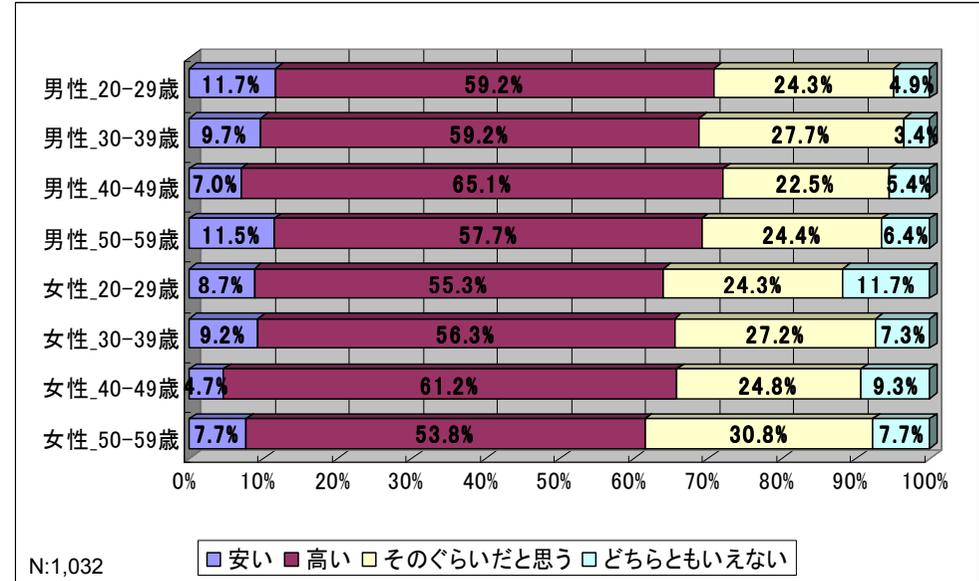
# Q5

「がん」の平均の治療費が100万円といわれたら、あなたはどのように思いますか。

【全体】



【性別・年齢別】

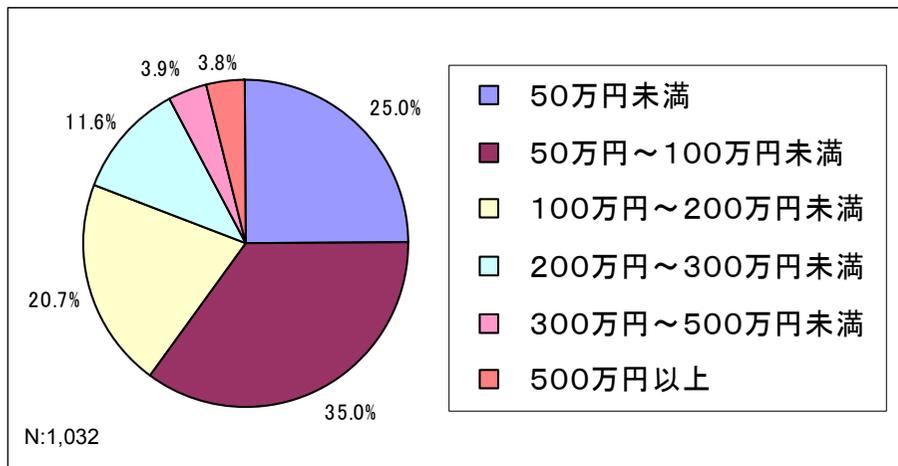


がんの治療費が平均100万円と言われると大半の方は高いと感じていることから、一般の方がイメージする治療費と実態にギャップが生じている可能性があります。

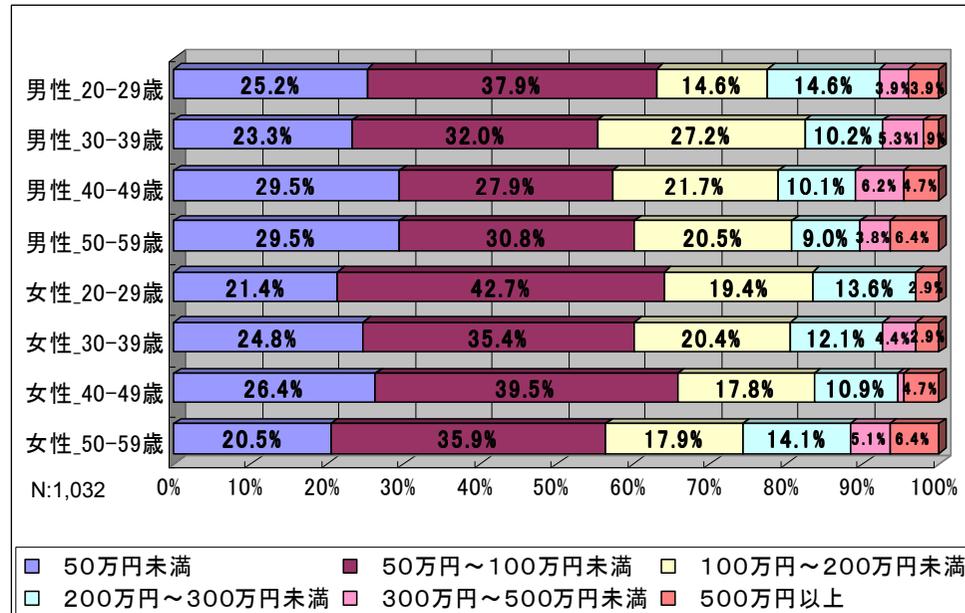
# Q6

もし、「がん」になったら治療費としていくらまで使うことができますか。  
 (がん保険の保険金なども含めてお考えください)。

【全体】



【性別・年齢別】

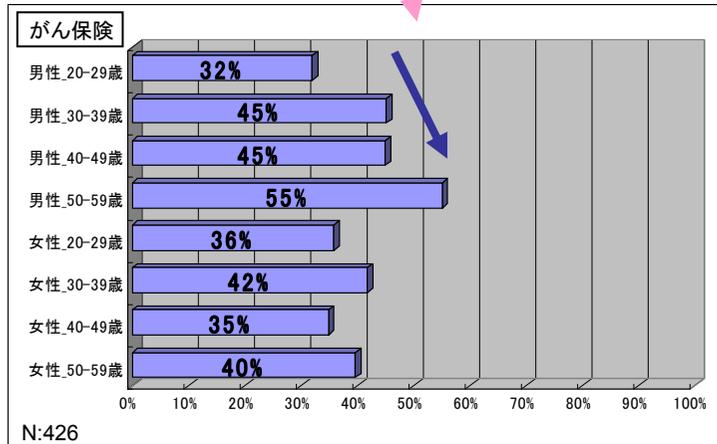
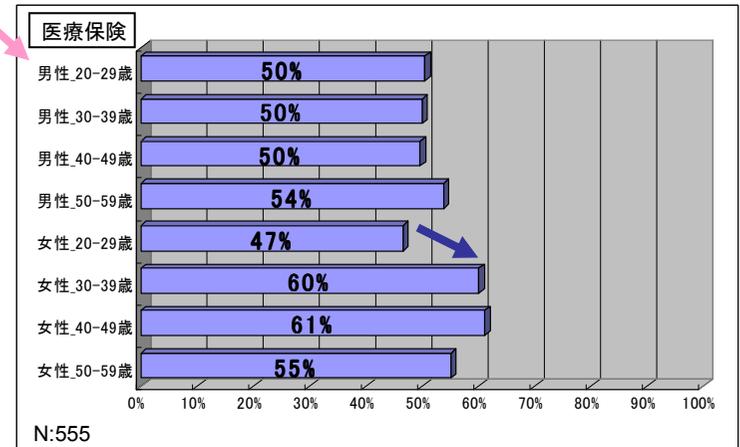
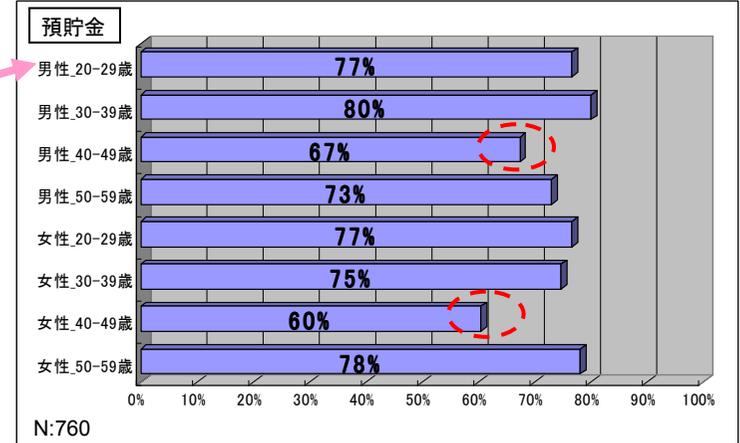
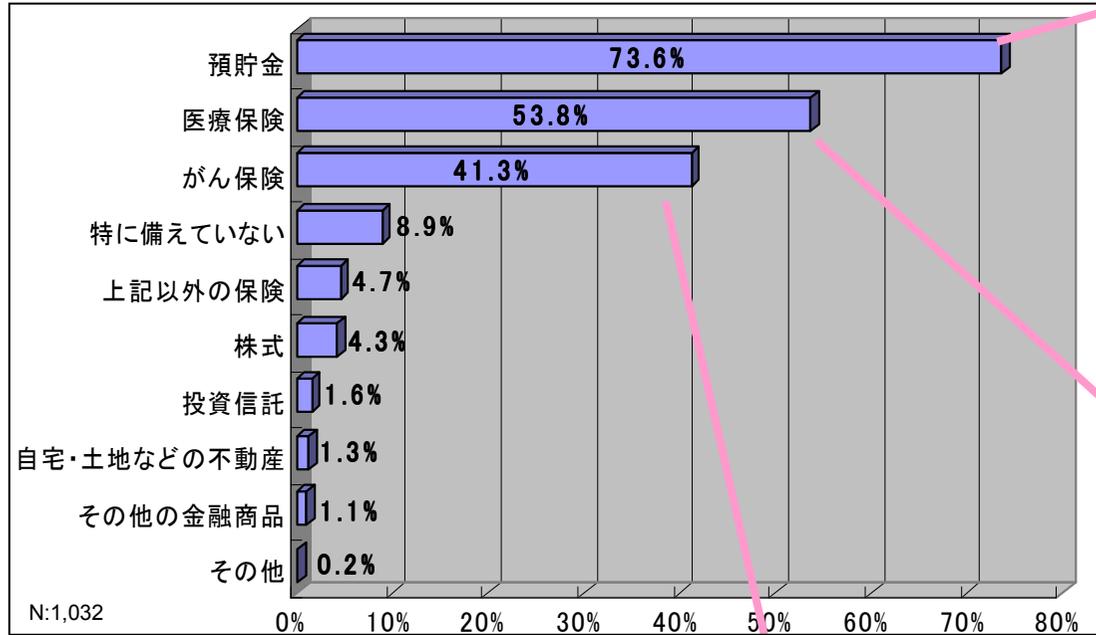


50万円以上100万円未満と回答した方が最も多く、また、50万円未満と回答した方と合わせると全体の6割に達しています。  
 Q5においてがんの治療費として100万円は高いと回答した方が多くなっておりましたが、それを裏付けるように、がんの治療費として利用できる資金も100万円未満と回答する方のウエイトが高くなっております。

# Q7

Q6で回答していただいた治療費に充てるのは以下のどれですか。(複数回答可)

## 【全体】



がんの治療費として預貯金の活用を想定している方が最も多く、医療保険やがん保険などの民間保険の活用が次いで多くなっておりま

す。  
40代では預貯金でがんの治療に備えようと考えている方が相対的に低くなっておりま

す。これは、この時期は、子育て等で比較的支出が多くなっていることが影響していると思われま

す。また、女性は30代になると医療保険でがん

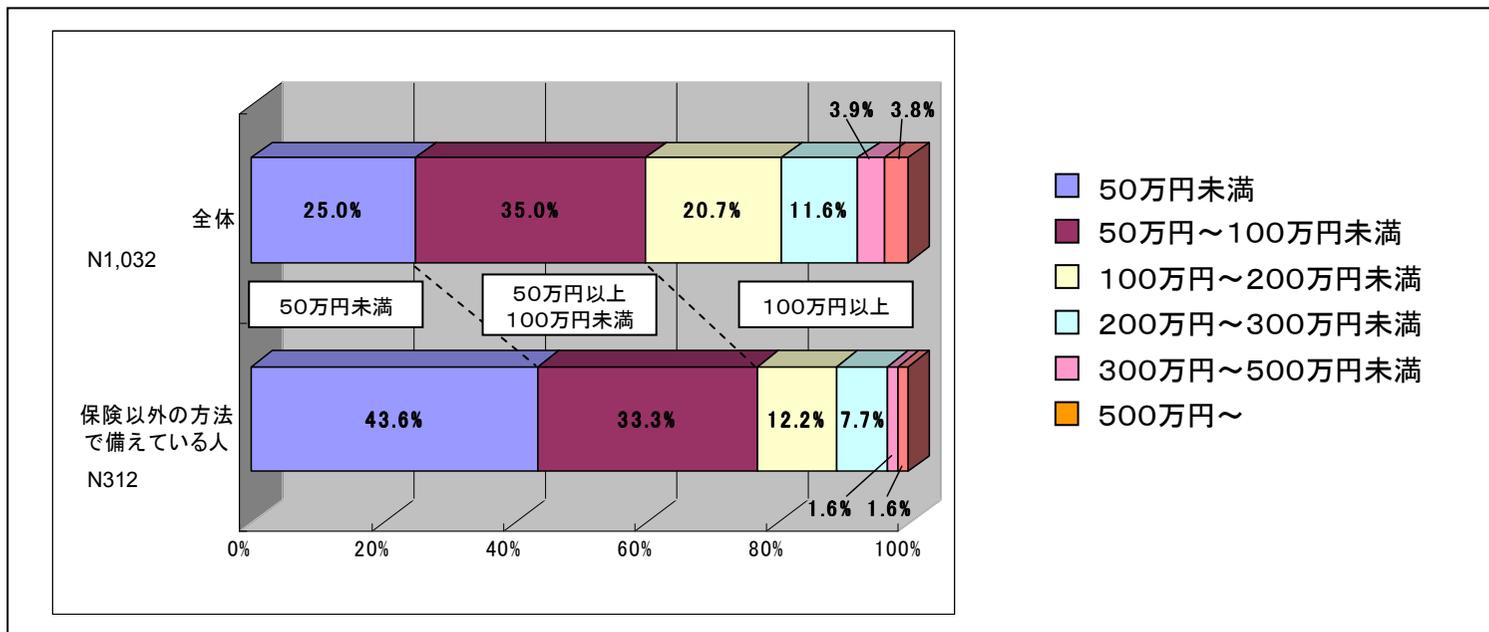
に備えようとする方が20代に比べて大幅に増加する(≒医療保険への加入率増加)、男性は年を追うごとにがん保険でがん

に備えようとする方が増加する傾向が見られま

す。なお、保険以外の方法でがん

に備えている方は、がんの治療に充てられる資金は少ない傾向が見られま

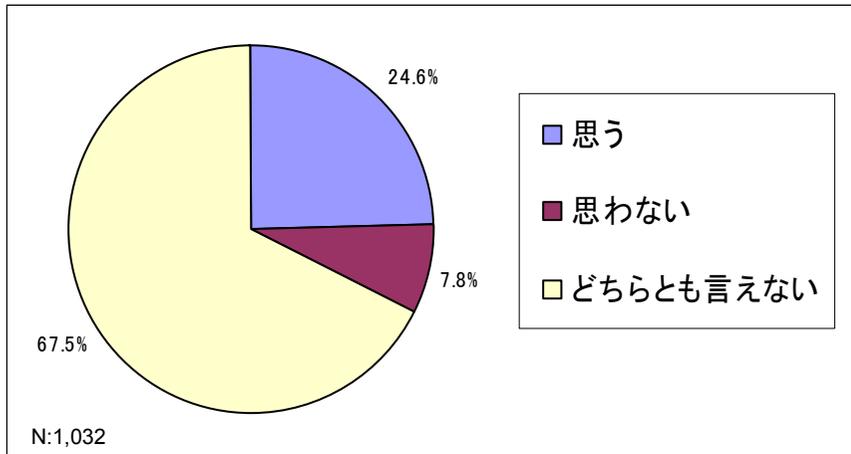
す(下グラフ参照)。



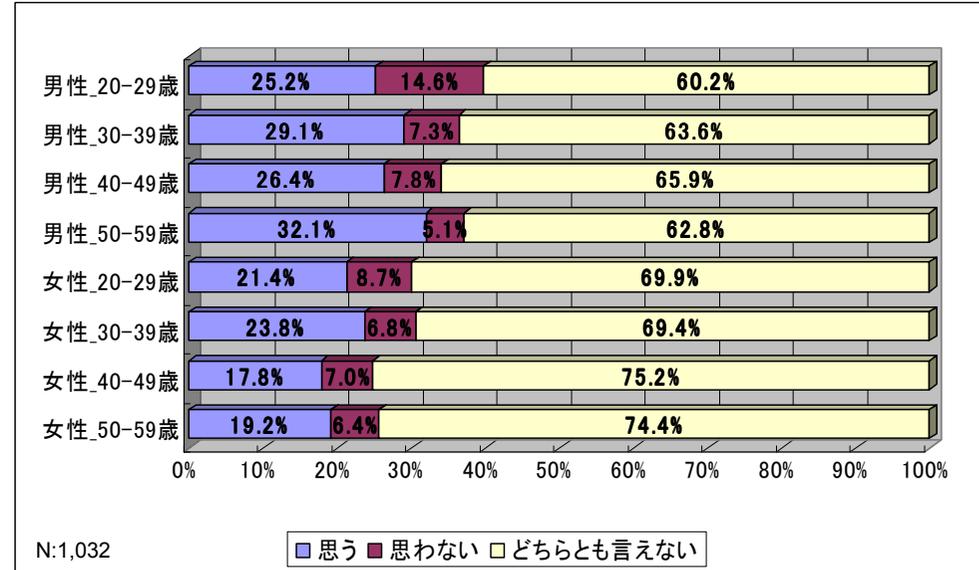
# Q8

自分は将来「がん」になると思いますか。

【全体】



【性別・年齢別】

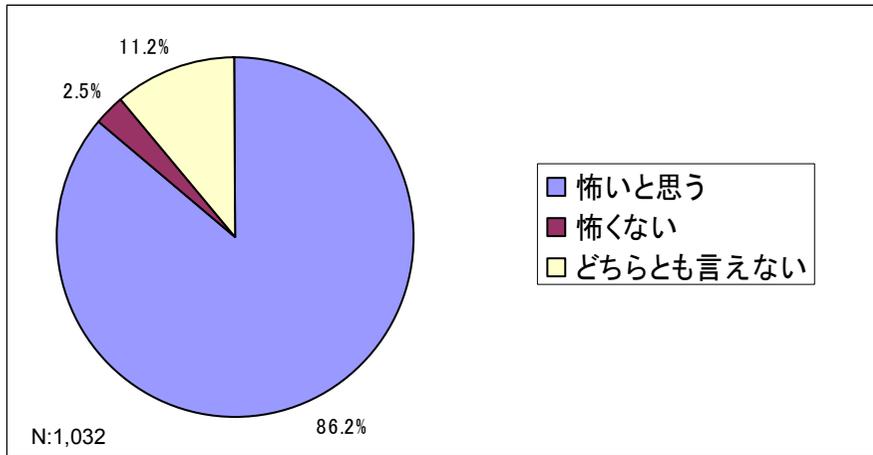


将来がんになると思うと回答した方は全体の約25%、大半の方は将来がんになるか否かどちらとも言えないと感じていることが分かります。

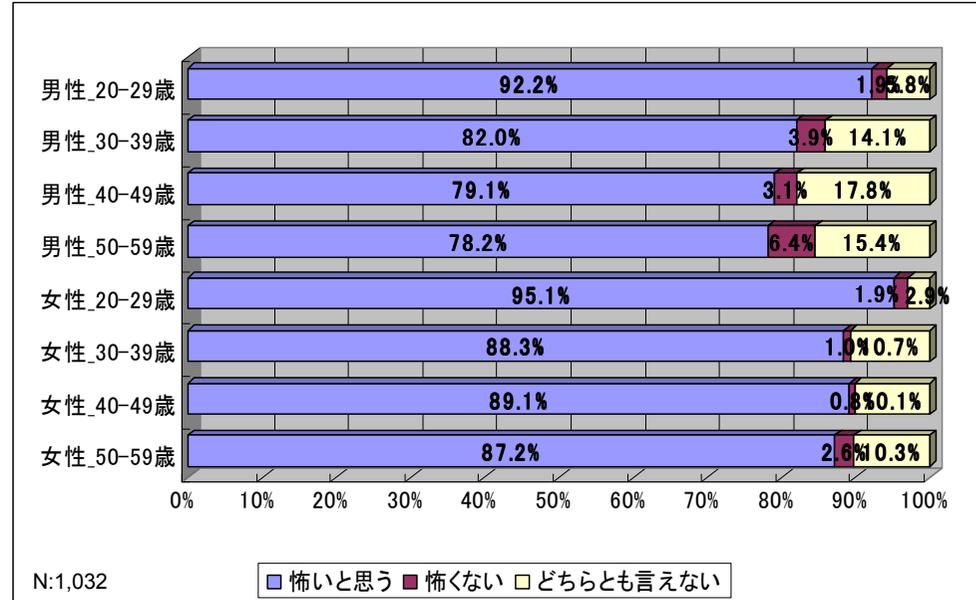
# Q9

「がん」は怖いと思いますか。

【全体】



【性別・年齢別】

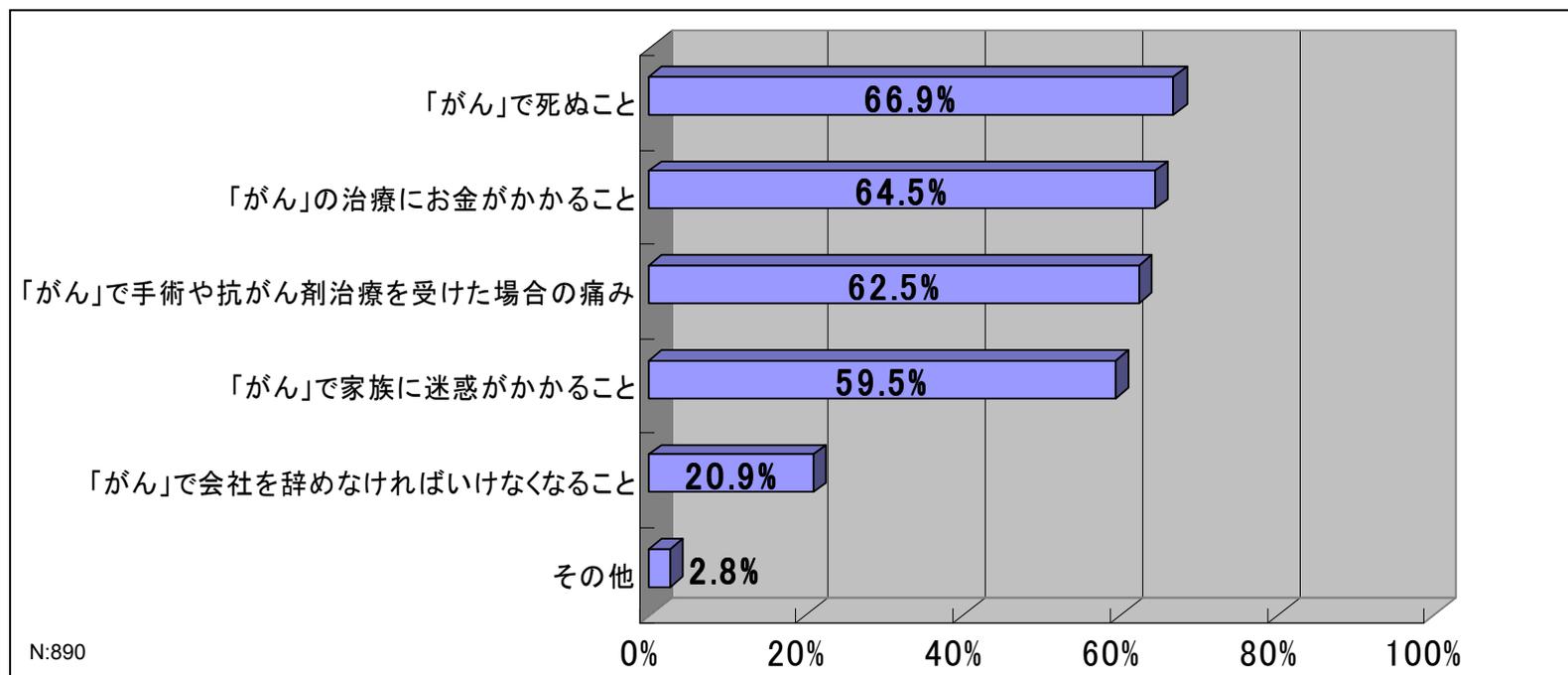


全ての年代においてがんは怖いと思っている方が圧倒的に多くなっております。また、相対的には若年層の方が中高年齢層よりもがんを怖いと感じていることが分かります。

## Q10

Q9で怖いと答えた方にうかがいます。「がん」で怖いことは何ですか。(複数回答可)

【全体】

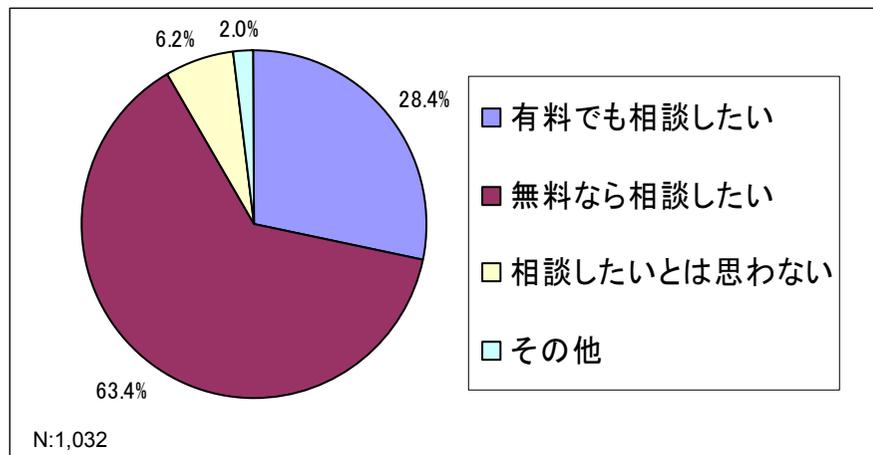


「がんで死ぬこと」や「がんで手術や抗がん剤治療を受けた場合の痛み」などの肉体的な苦痛だけではなく、「がんの治療にお金がかかること」や「がんで家族に迷惑がかかること」など、様々な面でがんに対する不安を持っていることが分かります。また、ウエイトは大きくありませんが、がんに罹患したことにより、会社を辞めなければならなくなることを不安に思っている方が一定程度いることが注目されます。

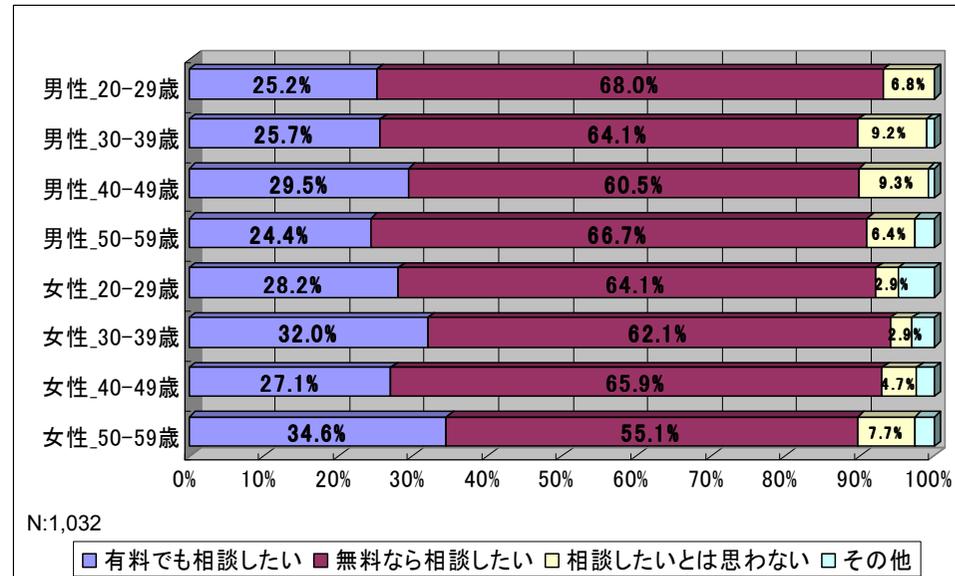
# Q11

「がん」になったときに担当医以外の専門家に相談できるとします。  
以下のうち、お考えに一番近いのはどれですか。

【全体】



【性別・年齢別】



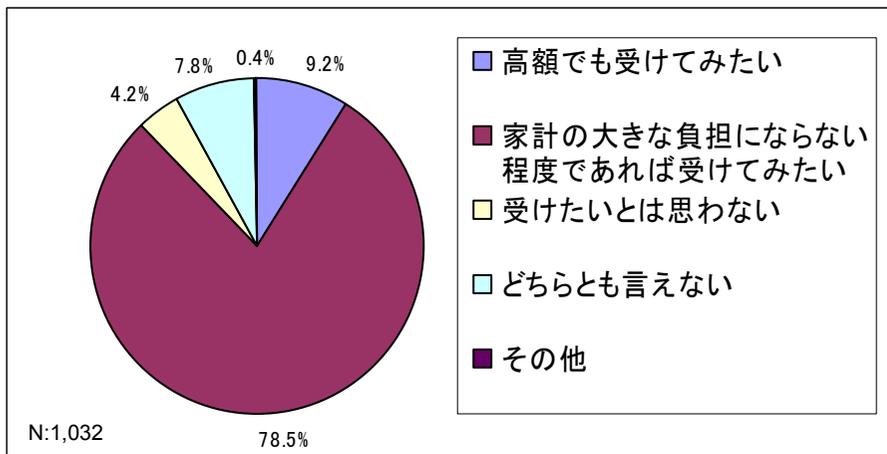
がん罹患したときに担当医以外の専門家に相談したいと考える方が「有料でも相談したい」・「無料なら相談したい」を合わせて9割以上に達しております。

セカンドオピニオンという言葉が一般化しつつある中、自分の治療内容等についての情報を広く求めたいという意識が表れているものと考えられます。

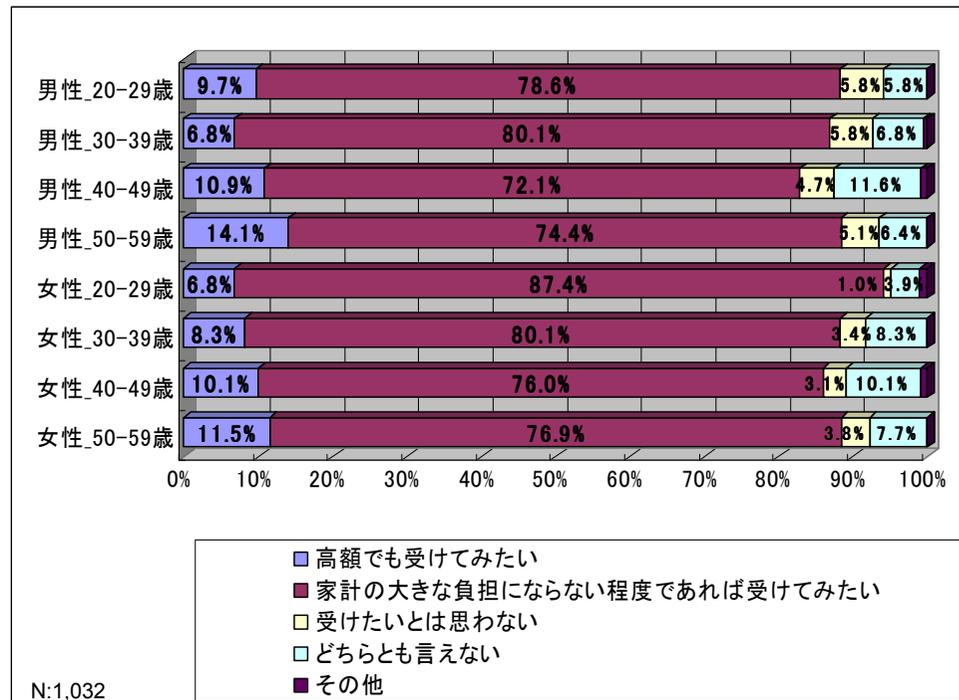
# Q12

自分が「がん」になったら、有効な治療法であれば、健康保険の対象外であったとしても受けてみたいと思いますか。

## 【全体】



## 【性別・年齢別】



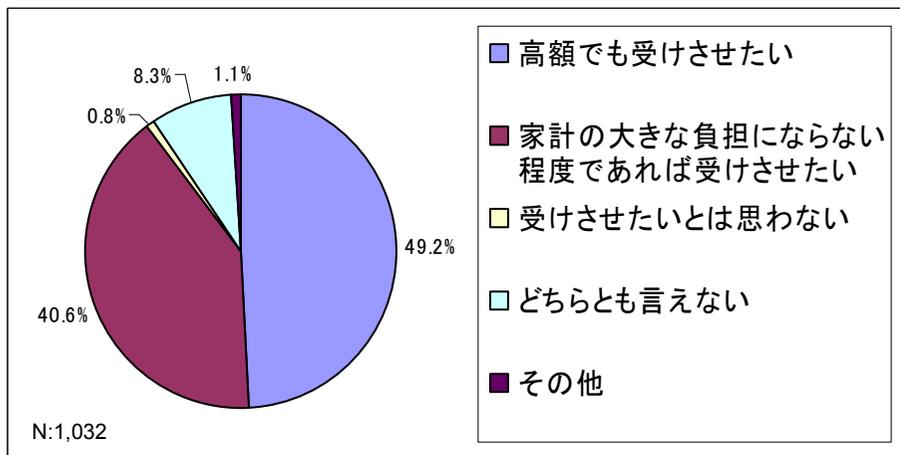
自分のがんの治療については、健康保険の対象外の治療法であっても家計の負担にならない程度であれば受けてみたいとの意見が圧倒的に多くなっております。

一方、高額であっても治療を受けてみたいとの意見は1割未満となっており、家計を圧迫するのであれば、有効な治療法であっても当該治療を受けることを遠慮するとの心理がうかがえます。

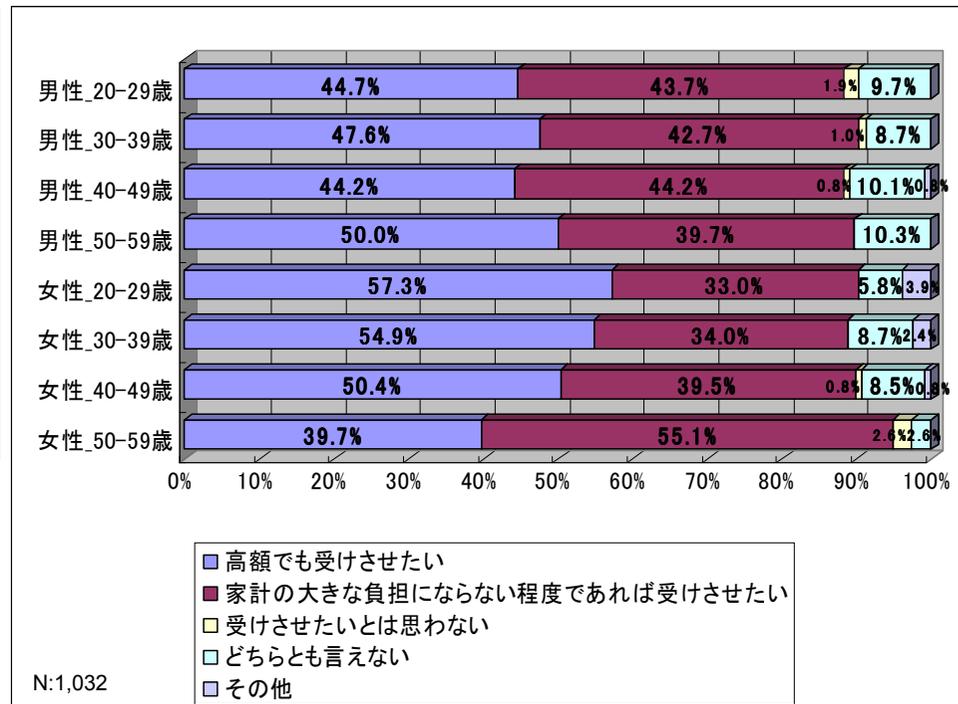
# Q13

自分の家族が「がん」になったら、有効な治療法であれば、健康保険の対象外であったとしても受けさせたいと思いませんか。

## 【全体】



## 【性別・年齢別】



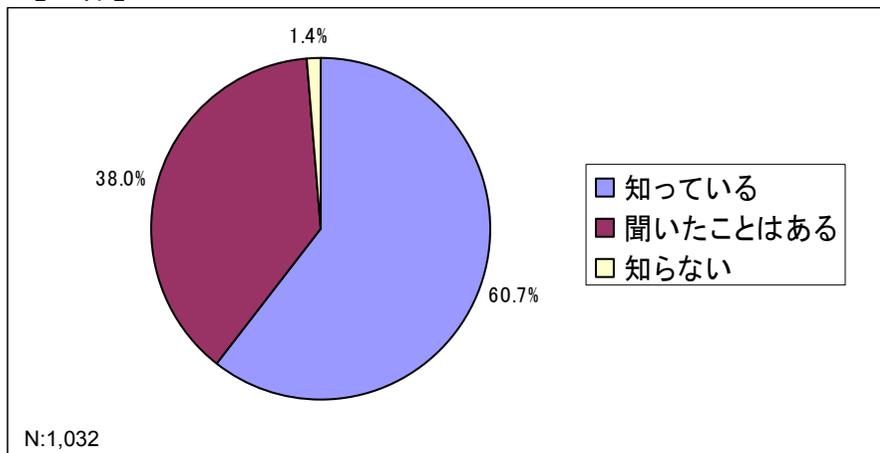
Q12と異なり、家族の治療であれば、健康保険の対象外の高額な治療であっても受けさせたいと考える方が多いことがうかがえます。

# Q14

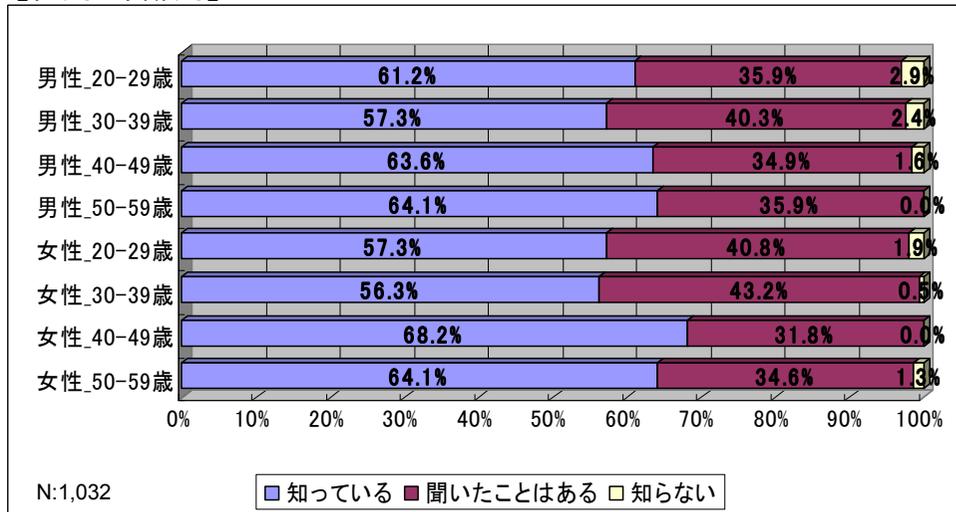
次の言葉をご存知でしょうか。

●「先進医療」という言葉をご存知でしょうか。

【全体】

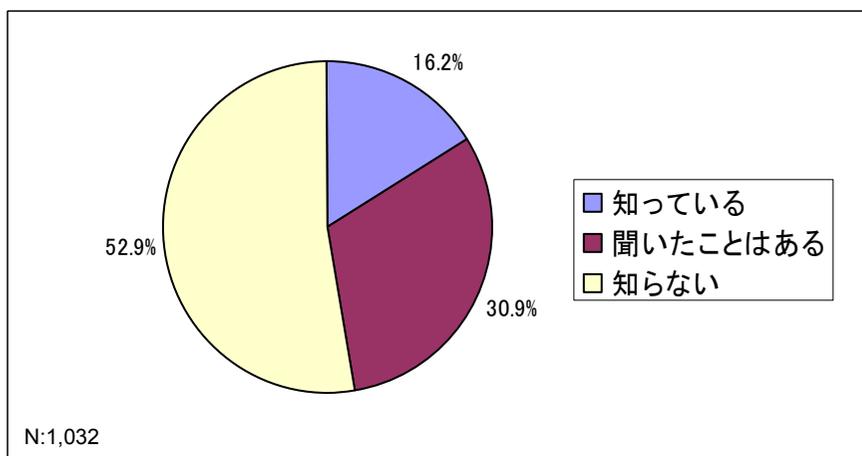


【性別・年齢別】

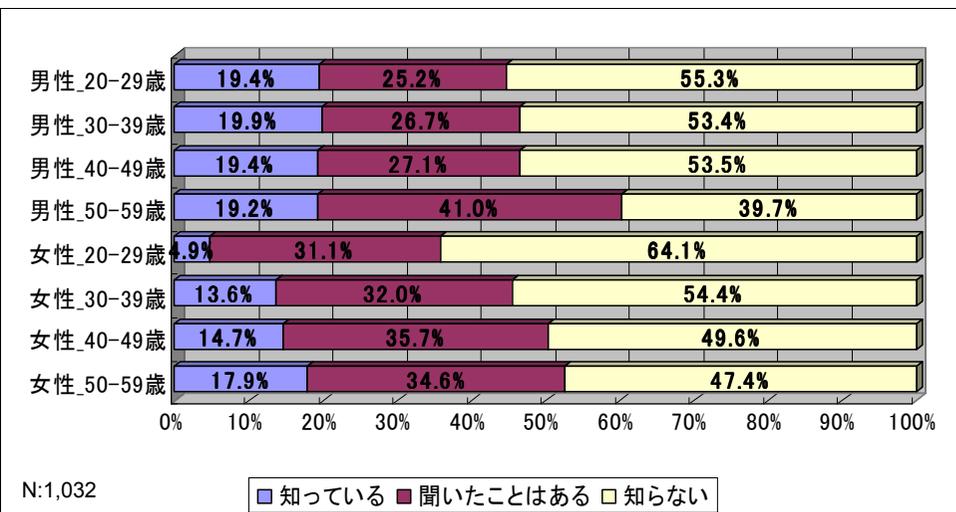


●「重粒子線・陽子線治療」という言葉をご存知でしょうか。

【全体】

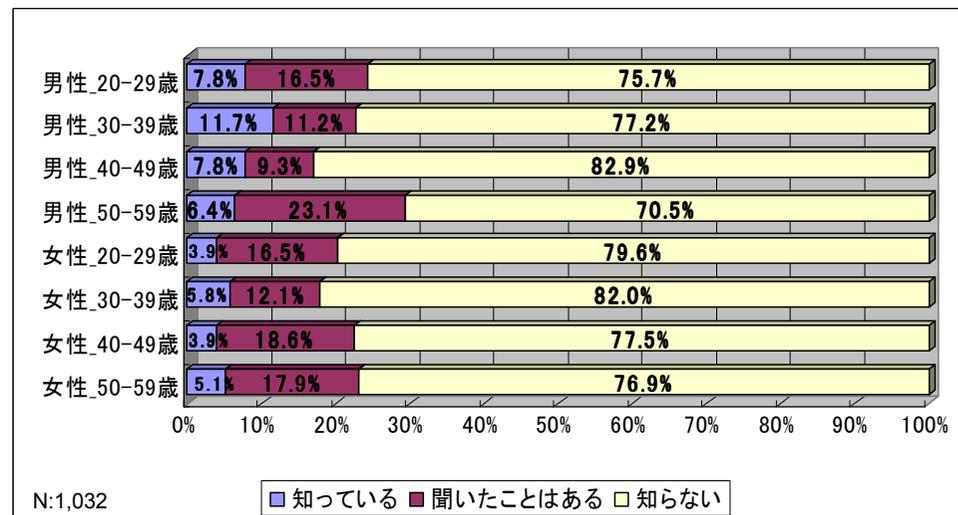
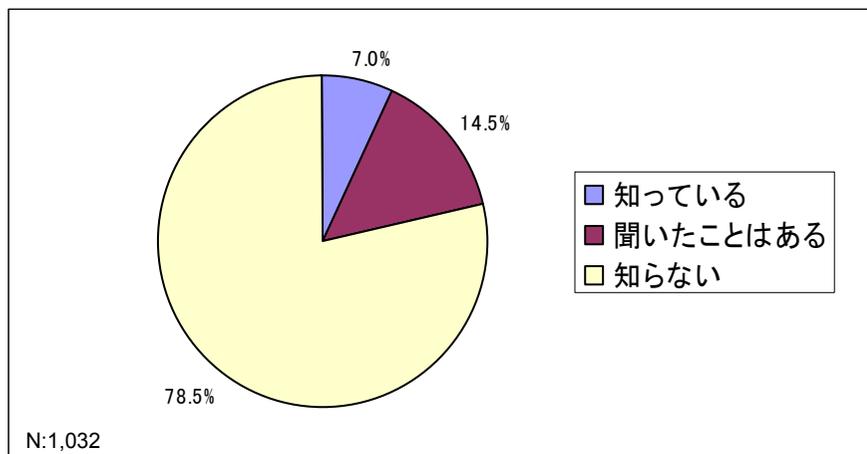


【性別・年齢別】



●「手術支援ロボット」という言葉をご存知でしょうか。

【全体】



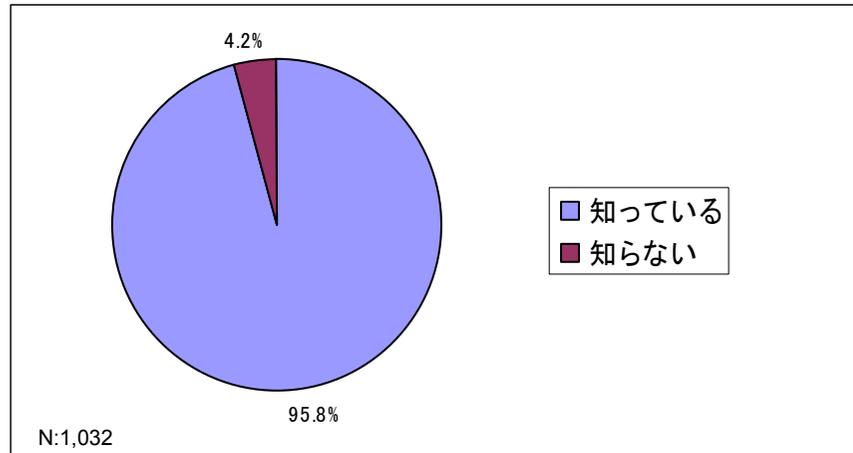
先進医療という言葉を「知っている」「聞いたことはある」という方の合計は98%以上に達し、ほとんどの方が先進医療という言葉を知ったことがあることが分かります。

また、重粒子線・陽子線治療や手術支援ロボットなどがんの最先端治療の名称についても2割程度の方が「知っている」、または「聞いたことはある」と回答しており、がんの最先端治療に対する関心が広がりつつあることがうかがえます。

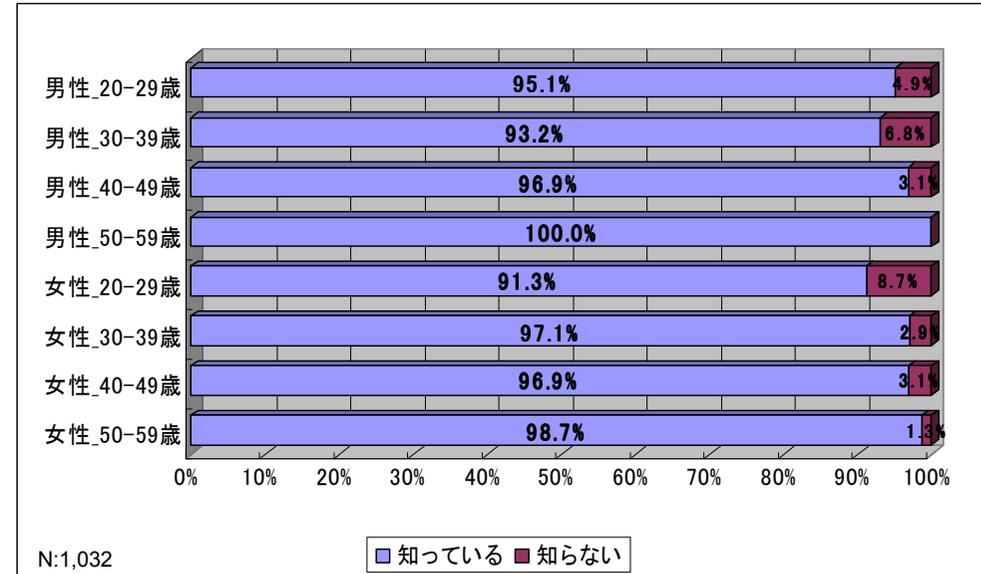
# Q15

「がん」を保障するがん保険というものがあるのを知っていますか。

【全体】



【性別・年齢別】



全ての世代・性別を通じてがん保険の認知度は非常に高いことがうかがわれます。